

7
18

稲わらアート(トトロ)のお別れ会



あぐりスクールで牛の乳しぼり体験

7
26

トトロとお別れする児童たち



宇和島市三間町にある県立北宇和高等学校三間分校農業クラブは7月18日、「稲わらアート(トトロ)」の解体に伴い三間小学校5年生27名の児童とお別れ会を開きました。

児童たちは2班に分かれて30分という短時間でアートの解体作業が終わり、結んである藁(わら)をハサミで切り丁寧に藁をとりました。

このアートは2014年に同校(旧三間高等学校)の農業機械科が制作したもので同町の地域イベントなどに展示され、地域の方々や子ども達に大人気です。制作してまもなく10年を迎えることから、稲わらの劣化に伴い、同クラブ会長の猿谷めぐみさんが課題研究を通して地元である三間町をこれまで以上に盛り上げて行きたいという強い思いから新たに「稲わらアート」を新調することとなりました。猿谷さんは「4年後に三間分校は北宇和高等学校と統合します。残り少ない期間ですが、地域の方々に喜んでもらえることを楽しみに作っていききたいと思います」と話していました。



このアートは11月に開かれる予定の「みま町コスモスまつり」に間に合うように制作を計画しています。



JAえひめ南は食農教育として取り組んでいる「あぐりスクール」を7月26日に西予市野村町の畜産研究センターで開きました。今年度2回目となり、児童たちは同センター主催のイベント、牛の乳搾りやポニーとウサギのふれあい体験、牛の体重当てクイズなどを楽しみました。

牛の乳搾りでは、センターの職員に搾り方を教わりながら一人ひとりゆっくり搾っていました。参加した児童は「初めての乳搾りは少し怖かったけど上手に搾れてよかった」と話していました。



ウサギと触れ合う児童たち

7
30

早期米の稲刈り始まる



JAえひめ南管内の宇和島市津島町では7月30日に早期米の収穫が始まりました。

JA管内の出荷契約者は約900人で大半が早期米「コシヒカリ」「あきたこまち」を栽培しています。本年度は1,950ト(65,000袋)の出荷を見込みます。JAの担当者によると全体的に病害虫被害も少なく、生育状況も良いとのこと。



(左から) 喜代子さん 幸那さん 涉さん

同町の船田涉さんは31日に暑い中、4月中旬に植え付けた「あきたこまち」約65ア(母)喜代子さん、(娘)幸那さんで黄金色に色づいた稲を次々と刈り取りました。船田さんは「去



年も収量が多かったが今年も多い。これからも安定した収量でよいお米を作りたい」と話していました。

JA管内では8月10日から米検査が始まります。